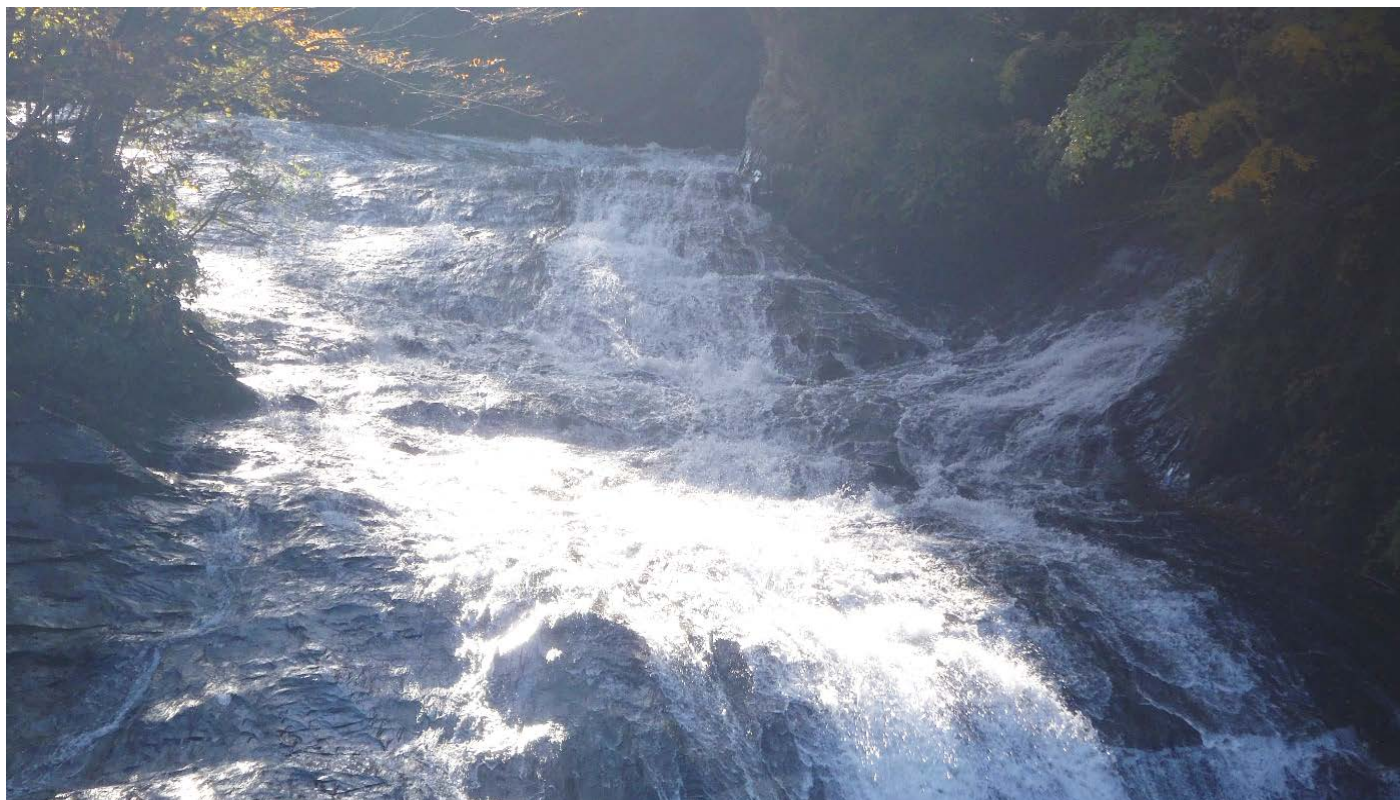


第 13 回東京都作業療法学会抄録集

「変流」

—激流の行き先を決めるのは我々作業療法士だ—



会期:平成 28 年 11 月 19 日(土)20 日(日)

会場:帝京平成大学 池袋キャンパス

主催 東京都作業療法士会

The 13th
Annual Tokyo
Occupational Therapy
Conference 2016



第13回東京都作業療法学会

- 会 期** 平成28年11月19日(土) 13:00~17:30
20日(日) 9:00~16:00
- 会 場** 帝京平成大学 池袋キャンパス
- テ ー マ** 「変流」-激流の行き先を決めるのは我々作業療法士だ-
- 学 会 長** 渡辺 浩之 (医療法人社団じうんどう 慈雲堂病院)
- 実行委員長** 山下 高介 (医療法人社団 翠会 陽和病院)
- 主 催** 一般社団法人 東京都作業療法士会
- 開催ブロック** 区西北部ブロック
- 後 援** 東京都 豊島区 公益社団法人 東京都医師会
公益社団法人 東京都看護協会
公益社団法人東京都理学療法士協会 東京都言語聴覚士会
一般社団法人 日本作業療法士協会
- 参 加 費** 都士会員 5000円 (事前登録 4000円)、非会員 6000円
学生 (大学学部生・専門学校生) 500円

スケジュール

19日

	605教室	612A教室	3階学生ラウンジ
13:00	13:00 受付開始		懇親会会場 17:40～ 当日受付もあります
14:00	13:50 開会式		
	14:10～15:10 大会長講演 渡辺浩之 「変流の意味するところ」		
15:00		15:20～16:20 Workshop 1 地域包括ケア対策委員会 MTDLP事例検討	
16:00	15:20～16:10 口述発表1		
	16:25～17:15 口述発表2	16:30～17:30 Workshop 2 認知症と家族の支援委員会 認知症の人と家族を支援していくために	
17:00			

20日

	416教室	412教室	410教室	612A教室
9:00	8:50 受付開始			
10:00	9:30～10:20 口述発表3	9:30～10:30 Workshop 3 精神科医療における対話を用いた 非薬物療法		
11:00	10:30～11:20 口述発表4	11:00～11:20 ポスター貼り付け	10:35～11:35 Workshop 4 子ども委員会 子ども委員会カフェ	
12:00	11:30～12:20 口述発表5	11:40～12:20 ポスター発表		
13:00	12:20～13:20 昼食			
14:00	13:30～14:30 特別講演 矢谷令子先生 「思い描いていた現在（今）と 思い描く未来（これから）」		13:20～15:40 就職個別対応	13:00～15:35 就職説明会
15:00	14:40～15:40 シンポジウム 「変流は始まっている、いざ地域へ」 越智哲夫先生 野々垣睦美先生 石黒武先生			
	15:50 閉会式			

学会開催にあたって

第 13 回東京都作業療学会 学会長
医療法人社団じうんどう 慈雲堂病院
渡辺 浩之

この度、第 13 回東京都作業療学会の学会長を拝命しました渡辺浩之です。本学会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今学会は区西北部ブロックが中心となって準備を進めてきました。実行委員に結集してくれた当ブロックの若手作業療法士の志気は高く、行動力があり、労を惜しまず尽力してくれたことに深く感謝すると共に、頼もしく感じ、作業療法の未来は明るいと実感しました。また、東京都作業療法士会理事の皆様をはじめ、多大なるご協力をいただいた関係各位の皆様、そして、講演、シンポジウム、ワークショップの依頼を快諾して下さいました先生方に心より感謝いたします。

東京都作業療学会は年々規模が大きくなり、内容も充実し、深化・汎化しており、演題数も昨年は 50 演題を超えました。そこで、13 回を迎える今年は 2 日間開催としました。参加された皆様により多くのものを持ち帰っていただけたと思っています。

本学会のテーマは「変流～激流の行先を決めるのは我々作業療法士だ～」です。既に告知させていただいていますが、「変流って何だ?」「変流とはどういう意味だ?」と思った方も多いと思います。

学会長講演は、「変流の意味するところ」と題し、「変流」についての説明、「変流」に込めた想いをお話したいと思います。

特別講演は矢谷令子先生をお招きし「思い描いていた現在(今)と思い描く未来(これから)」について講演していただきます。豊富な経験をもとに、過去から何を学び、何を将来へつなげるのか、熱いメッセージをいただけることと思います。

また、ワークショップは「生活行為向上マネジメント」、「認知症の人と家族の生活支援委員会」、「オープンダイアログ」、「子ども委員会」と、今多くの方々が関心を寄せる領域、内容となりました。とりわけ、オープンダイアログではその発祥の地フィンランド視察の報告が聞けると思います。

加えて、都士会学術部、事業部、帝京平成大学就職課の協力を得て、昨年好評であった就職・職場説明会を開催します。学生にとって職場を知る機会となり、就職先を決める一助となるものと思います。

シンポジウムには地域で活躍する先生方をシンポジストにお招きしました。「地域」はまさに「激流の行きつく先」の一つでもあります。会場の皆様との活発な討論、意見交換を期待しています。

56 題の口述・ポスター発表では、身体障害、発達障害、精神障害、老年期、地域、就労支援、NST と幅広い分野から演題が集まりました。

2 日間の学会の中で理論、知識、研究結果を会得するのは勿論のこと、現場で活躍する作業療法士との出会い、交流の中で明日への活力を得ていただけたと思っています。

ワークショップ・一般演題 演題タイトル一覧

ワークショップ・シンポジウム

ワークショップ 1	19日 15:20-16:20	612A 教室
「生活行為向上マネジメント事例検討会 -作業療法をわかりやすく説明するために-」 東京都作業療法士会 地域包括ケア対策委員会 猪股英輔 先生 他		
ワークショップ 2	19日 16:30-17:20	612A 教室
「認知症の人と家族を支援していくために -パーソン・センタード・ケアの観点から-」 東京都作業療法士会 認知症の人と家族の支援委員会 内田達二 先生		
ワークショップ 3	20日 9:30-10:30	412 教室
「精神科医療における対話を用いた非薬物療法 ~オープン・ダイアログを実践するためには~」 医療法人社団翠会 みどりの杜クリニック 森川すいめい 先生		
ワークショップ 4	20日 10:35-11:35	410 教室
子ども委員会ワークショップ “子ども委員会カフェ ~特別支援について語ろう~” 首都大学東京健康福祉学部 伊藤祐子 先生		
シンポジウム	20日 14:40-15:40	416 教室
「変流は始まっている、いざ地域へ」 座長： 第13回東京都作業療法学会 学会長 渡辺浩之 シンポジスト： 彰栄リハビリテーション専門学校 越智哲夫 先生 地域作業所ネットワークてつなぎつづき 野々垣睦美 先生 Steady&Link グループホームリックス 石黒武 先生		

一般演題（口述発表）

口述発表1 座長 中浦俊一郎（東京YMCA医療福祉専門学校）

19日(土) 15:20-16:10 605教室

- 演題1 ビーズクッション型採型機によるポジショニングによる感覚入力訓練
相武病院 青木将剛
- 演題2 他職種連携により外泊を達成し得たクロイツフェルト・ヤコブ病の一症例
東邦大学医療センター大森病院 林政雄
- 演題3 脳卒中後うつに対する暴露療法適用についての文献研究
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 阿部直人
- 演題4 ミャンマー連邦共和国における作業療法発展への課題
無所属 大塚進

口述発表2 座長 宇佐美好洋（帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科）

19日(土) 16:25-17:15 605教室

- 演題5 『穴掘り好きです。』作業で個人的原因帰属が変わる
小平中央リハビリテーション病院 田原真悟
- 演題6 橋梗塞により右片麻痺を呈した症例～HOPEへの自己効力感向上を目指したアプローチ～
苑田第一病院 石田和帆
- 演題7 退院後の主体的な生活の再獲得を目指した介入～生活行為向上マネジメントを用いて～
竹ノ塚脳神経リハビリテーション病院 古田憲一郎
- 演題8 脳梗塞を経験した調理人の復職
河北リハビリテーション病院 館岡周平

口述発表3 座長 大館哲詩（花はたりリハビリテーション病院）

20日(日) 9:30-10:20 416教室

- 演題9 毛筆の作業を用いた箸動作へのアプローチ～普通箸で食事自立となった橋出血の一症例～
竹川病院 鹿島田千裕
- 演題10 食事の自立に向けた作業療法支援～作業療法介入プロセスモデルでの振り返りと検証～
永生病院 宗石裕子
- 演題11 脳卒中後のリハビリテーションに対し強い不満を持った症例に対する作業療法
—合意目標を設定して支援計画を立案することの重要性の検討—
帝京平成大学 宇佐美好洋
- 演題12 MTDLPの使用が施設内での連携を促進させ、買い物を再開することができた事例
古賀整形外科通所リハビリテーション 二村元気

口述発表 4 座長 中本久之 (帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科)

20日(日)10:30-11:20 416教室

- 演題 13 注意障害を呈した患者様の意欲を保つ介入とは～「仕事」に焦点を当てたアプローチ～
永生病院 陶山詩織
- 演題 14 左半側空間無視患者に対するアプローチの検討
ふじの温泉病院 菅原光晴
- 演題 15 社会的シグナルがヒトの衝動性制御に及ぼす影響 -Go/Stop 課題を用いた検討-
人間総合科学大学大学院 大竹隼人
- 演題 16 高次脳機能障害者に対する単身生活支援の取り組みー 自律的な社会参加を目指して ー
東京都練馬障害者支援ホーム 水野充美

口述発表 5 座長 原口晋一 (帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科)

20日(日)11:30-12:20 416教室

- 演題 17 実動作からアパシーの改善がみられた症例～目標と生活の結び付け～
竹川病院 高橋亮
- 演題 18 精神科病院における地域移行支援の取り組み～実践を通して考えること～
慈雲堂病院 澁谷佳代
- 演題 19 精神科デイケアにおける就労支援プログラムの実践～
働くために必要なデイケアプログラムとは？
慈雲堂病院 木下明雄
- 演題 20 認知機能の向上が適応障害の改善に結びついた症例を通して
南多摩病院 長谷川好子

一般演題(ポスター発表)

ポスター発表 I

20日(日)11:40-12:20 412教室

- 演題 21 脳卒中者と医療者を対象としたカフェ型ヘルスコミュニケーション活動「暮らしのカフェ」
イムス板橋リハビリテーション病院 河原克俊
- 演題 22 当院における同窓会企画による地域貢献活動の試み
イムス板橋リハビリテーション病院 河原克俊
- 演題 23 多摩丘陵病院における自動車運転支援～自動車運転支援の開始と教習所連携による実車評価
に至る過程の紹介～
多摩丘陵病院 西口真生
- 演題 24 東京都作業療法士会における災害時安否確認予行練習の取り組み
東京都作業療法士会 松岡耕史

演題 25 生活行為向上マネジメント実践者は MTDLP を実践する際どのような障壁や課題を感じ、そしてどのように解決したのか (第一報)

山王リハビリ・クリニック 田中克一

演題 26 生活行為向上マネジメント実践者は MTDLP の実践でどのような障壁や課題を感じ、どのように解決したのか (第二報)

山王リハビリ・クリニック 田中克一

演題 27 看護フェスタにおける作業療法啓発活動報告「あなたにとって大切な作業は何ですか？」

東京都作業療法士会 中村彩乃

ポスター発表Ⅱ

20 日(日)11:40-12:20 412 教室

演題 28 A 大学における女子大学生の睡眠状況と心理的要因について

杏林大学 齋藤利恵

演題 29 作業療法臨床実習における現状と課題 2009～2013 年の学会抄録レビュー

帝京平成大学 中本久之

演題 30 手指握り込み拘縮の自動伸展現象

相武病院 青木將剛

演題 31 異食症を呈する重度認知症高齢者についての検討

ふじの温泉病院 菅原光晴

演題 32 「我が国における作業療法教育研究の傾向」—1963 年～2016 年の文献レビュー—

首都大学東京大学院 中村恵理子

ポスター発表Ⅲ

20 日(日)11:40-12:20 412 教室

演題 33 第二の人生につなげるための急性期における作業療法

北原国際病院 牧沙織

演題 34 早期の目標共有により、リハビリ拒否が軽減した症例

総合東京病院 松井幸菜

演題 35 生活行為向上マネジメントの活用-医療から福祉・地域生活へ生活行為申し送り表を用いて-

多摩丘陵病院 阿部葉

演題 36 低周波治療機器 (TES/IVES) を導入した一例-シングルケーススタディー-

河北リハビリテーション病院 今法子

演題 37 TFCC 損傷に対するネオブレン製スプリントの症例報告

同愛記念病院 樋口萌美

演題 38 廃用を来さないための早期介入を目的とした廃用防止ラウンドの試み

東京都健康長寿医療センター 本田拓也

ポスター発表IV**20日(日)11:40-12:20 412教室**

- 演題 39 転倒予防へのロボットを用いたゲームの活用—ゲームの紹介とアンケートの分析—
杏林大学 鈴木健太郎
- 演題 40 当院のリワークプログラム実践について
三軒茶屋診療所 佐藤俊之
- 演題 41 認知症高齢者の理解、支援に向けた「語り」に焦点を当てた文献レビュー 2005～2016
しもだてメディカルポート 岡田直純
- 演題 42 10年間の引きこもり生活から趣味をきっかけに活動的となり自立性を再獲得した一事例
ケアセンターけやき 訪問看護ステーション 神田幸洋
- 演題 43 かかわりを通して表出する反応に変化が生じた事例
～認知症をもつクライアントへのアプローチ～
台東区立台東病院 秋山友理恵
- 演題 44 精神科病院における経口摂取移行への取り組み～食べる喜びを取り戻す～
慈雲堂病院 古澤哲也

ポスター発表V**20日(日)11:40-12:20 412教室**

- 演題 45 馬券を買いに行きたい
～高次脳機能障害患者に対する余暇活動再獲得を目指したアプローチ～
台東区立台東病院 亀井将太
- 演題 46 脳血管障害を発症したクライアントに対する回復期病棟での作業的挑戦の支援
～OCAを用いた介入～
北原リハビリテーション病院 内田成美
- 演題 47 回復期リハビリテーション病棟にて反復性経頭蓋磁気刺激を施行し、
注意障害と更衣動作の介助量が軽減した症例
総合東京病院 立澤宏修
- 演題 48 客観的気づきを通して成功体験を促した症例～ADOC重要度・満足度の変化より～
苑田会リハビリテーション病院 田中晴菜
- 演題 49 復職を目標に理容師の作業に焦点を当てた介入を行った事例
竹川病院 姫田大樹
- 演題 50 回復期リハビリテーション病院における集団調理セッションの効果
イムス板橋リハビリテーション病院 小瀬綾美

「変流の意味するところ」

第13回東京都作業療法学会 学会長
渡辺浩之

本学会では、作業療法、医療・福祉の過去～現在～未来をひとつの大きな流れとして捉え、その原点、源流を辿り、今を見据え、これからを考え、明るい未来への流れとしていくための端緒を提示したい。

高齢社会に突入した我が国は更なる超高齢社会へと猛スピードで向かっており、少子化とあいまって大きな社会問題となっています。必然的に医療・福祉をはじめとした社会保障制度は大きな変革を求められています。それはまさに激流と呼ぶにふさわしい速く、激しく、大きなうねりであり、更に激しさを増してゆく流れ、うねりです。その流れの方向は「全ての人の命と健康、生活を守る」という皆が望む方向に向かっているのでしょうか？国会、行政での論議、制度は逼迫した財政を根拠とした「金のかからない医療・福祉」を前面に押し出した「地域へ」の流れであり、その行く先は医療・福祉の後退、縮小、切り捨てであり、生活の貧困化の拡大へと繋がるのではないのでしょうか？一方で、高齢になっても、障がいがあっても、住み慣れた地域で暮らしたい、家族と一緒に住みたいと思うのは当然のことです。安心して地域で暮らしたい、自分らしく地域で生きたい、そのためには医療においても、生活においても専門的なサポートが必要です。それができるのが作業療法士ではないのでしょうか？

もう、「地域」への流れは激しさを増しても止まることはありません。即ち、医療・福祉の後退、縮小の先にある「地域」なのか、病者、障がい者、高齢者の想いを叶える、願いに沿った「地域」なのか、この流れの行先を決める時、作業療法士の役割は非常に大きいのです。

また、一方では個性の尊重、自己主張できることが必要と言われていますが、実際は日本の社会の中では「人と同じであること」が強く求められます。「同じでなくてよい」、「変わっていてもよい」、変流にはその想いも込められています。

矢谷令子先生の特別講演、シンポジウムをはじめとして、学会全体の中で変流、流れの行先について考えていきたいと思っています。



渡辺浩之

(医療法人社団じうんどう 慈雲堂病院 作業療法士)

略歴

- 1999年 社会医学技術学院 卒業
- 1999年 医療法人社団 慈雲堂内科病院 入職
- 2006年 練馬区リハビリテーション連絡会 世話人
- 2009年 医療法人社団 じうんどう 慈雲堂病院(改称)
地域連携推進部 リハビリ科 科長
- 2010年 一般社団法人 東京精神科病院協会
患者レクリエーション委員
- 2012年 同 OT部門 研修委員
- 2014年 同 第28回東精協学会 座長チーフ

特別講演

「思い描いていた現在(今)と思い描く未来(これから)」

矢谷 令子

新潟医療福祉大学名誉教授

この度、頂戴いたしました、課題の要点は、一作業療法、発足時に描いた未来、50年後の現在、出来得なかったことは何か。そしてそこから描く未来は—と、了承致しました。ご存じの通りこの9月に作業療法学会50周年の基調講演に於きましても、50年の歴史を踏まえて未来につなぐもの…と題しお話致しました。大分重なるところがございますが、“50年で出来なかった”と言う、東京都市会の皆様の視点は、新鮮且つ十二分な反省と、未来への輝かしい挑戦と受け止めました。皆様方のご理解と若いエネルギーが未来への大きな、挑戦力とも、対象者の皆様への生きる力ともなって下されば、望外の喜びとなりましょう。当日は、ご一緒に課題を共有し、考え、語り合えますことを楽しみに、宜しく願申し上げます。



新潟医療福祉大学名誉教授
一般財団法人日本リハビリテーション振興会理事
日本作業療法士協会名誉会員
日本作業療法士協会協会長
(1979年6月～1991年7月)

略歴

1960年 テネシー州マディソン大学看護学科卒業
1963年 ロマ・リンダ総合大学アーライドヘルス学部作業療法学科卒業
1964年 国立東京病院附属リハビリテーション学院作業療法学科
1970年 ランチョ・ロス・アミゴス病院勤務
1971年 ウェスタン・ミシガン大学大学院作業療法学修士課程修了
1972年 国立東京病院附属リハビリテーション学院作業療法学科
1994年 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
1998年 国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科
2000年 新潟医療福祉大学医療技術学部作業療法学科
2007年 一般財団法人日本リハビリテーション振興会理事長
2016年 一般財団法人日本リハビリテーション振興会理事

ワークショップ1 MTDLP

生活行為向上マネジメント事例検討会 —作業療法をわかりやすく説明するために—

猪股英輔^{1),3)} 小野夏生²⁾ 小林幸治^{1),4)} 田中克一^{1),5)} 新泉一美^{1),5)}

- 1) 東京都作業療法士会地域包括ケア対策委員会
- 2) 多摩丘陵病院
- 3) 日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント指導者
- 4) 日本作業療法士協会生活行為向上マネジメントプロジェクト本部委員
- 5) 日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント登録ファシリテーター

キーワード：生活行為向上マネジメント 事例研究

私たち作業療法士は、対象者や他職種向けに作業療法をどのように説明しているだろうか？その際、生活行為向上マネジメント（MTDLP）の事例を示しながら紹介すると、作業療法の本質が伝わりやすい。そもそも MTDLP が開発された端緒はここにある。

文献によると「生活行為に課題をもつ方々への支援は、誰かが単独で取り組むものではなく、本人の意思を前提としたうえで、多くの方の連携を必要とし、本人も含めた主体的な取り組みにより初めて『人が望む作業』が実現できるもの^{*}」という説明がある。この文脈からは「意思決定支援」「合意形成」「連携」「主体性」「目標の達成可能性」といったキーワードが思い浮かぶ。推進事業の普及活動により MTDLP の認知度は高まりつつあるが、私たちは事例報告のかたちで作業療法の成果を伝える技術を磨くことも必要だ。MTDLP 研修制度では、基礎研修受講と事例報告を研修修了の要件にしているため、これを技術向上の手段の一つとしてお勧めしたい。

今回のワークショップは、事例報告の重要ポイントを知るため、事例報告を読むことに重点を置く二部構成とする。第一部では事例の読み方を解説する。読み方を理解することにより、事例報告の書き方がわかる。第二部では MTDLP 事例検討会を OT 協会の基準に準拠して進行する。一人の対象者の人生物語をとおして、様々な角度から意見交換すると、新しいアプローチの可能性が見つかる。さらに、ブロック研修や地域の勉強会などで MTDLP 事例検討会を開催するときの参考になれば幸いである。まだ MTDLP の手法を知らない方も、この機会にぜひ参加してほしい。

本ワークショップに参加することで期待される成果を以下に挙げる。

1. MTDLP 事例報告の重要ポイントがわかる。
2. MTDLP 事例報告を作成できる。
3. MTDLP 事例を用いて作業療法を説明できる。

参加者には、OT 協会ホームページからダウンロードできる「事例報告書作成の手引き（生活行為向上マネジメント）—生活行為の自立を目指して—」を一読しておくことをお願いしたい。

文献*) 土井勝幸：序文．日本作業療法士協会・編，事例で学ぶ生活行為向上マネジメント．医歯薬出版，2015．

ワークショップ2 認知症委員会

認知症の人と家族を支援していくために ーパーソン・センタード・ケアの観点からー

東京都作業療法士会 認知症の人と家族の支援委員会
内田達二

高齢化は、日本において大きな焦点となっており、東京においては、より一層深刻な課題です。東京都の報告では、2025年には高齢化率が25.2%となり、高齢者数は、332万人に達すると推計されています(<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KEIKAKU/2015/03/DATA/70p3r203.pdf>)。それに伴い認知症の人も増大してくることが予測されます。このような状況下では、首都圏の医療ー保健ー福祉の専門職が一般の方や家族の方などを含めて連携をして、支援をしていくことが重要と考えられます。地域包括ケアの中で作業療法士はどのような役割を期待されているのでしょうか？どのように連携を模索して行けばいいのでしょうか？

パーソン・センタード・ケアは、1990年代に英国の老年心理学者 T. Kitwood によって提唱された考え方です。認知症ケアの基本的な理念として、認知症ケアを実践する際のフレームワークとして広く活用されています。その一例としては、下記のようなものがあります。

- ・ 認知症ケアマッピング(Dementia Care Mapping)
- ・ ひもときシート
- ・ 大府センター式 コミュニケーションパック
- ・ プール活動レベル(Pool Activity Level)

など

本ワークショップでは、まず、認知症の人とその家族の支援について、パーソン・センタード・ケアをキーワードに認知症ケア現場の専門職はどのようなことを課題として考えているのかを振り返ります。そして、作業療法士が評価や治療・支援、情報共有など、様々な課題を多職種とやかに協働していくかについて、皆さまと考えていきたいと思えます。

< 略歴 >

東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 講師

NPO 法人 パーソン・センタード・ケアを考える会 理事

日本パーソン・センタード・ケアDCMネットワーク代表世話人

ブラッドフォード大学認定 パーソン・センタード・ケアとDCM 上級コース修了

筑波大学大学院教育研究科リハビリテーションコース修了

ワークショップ3 オープンダイアログ

精神科医療における対話を用いた非薬物療法 ～オープン・ダイアログを实践するためには～

医療法人社団翠会 みどりの杜クリニック
院長 森川すいめい

「オープン・ダイアログ (open dialogue)」とは、クライシス状態に対する治療介入手段で、フィンランドの西ラップランド地方で1980年代から実践されています。その手法は、とてもシンプルで、いくつかの原則を大切にしながら、本人にとって大切な人たちと対話を繰り返すというものです。世界的にも、このオープン・ダイアログ (フィンランド) と、べてるの家の当事者研究 (日本) は、対話を中心とした非薬物療法として注目を集めています。

近年、日本の精神科医療現場でも、この対話を中心とした非薬物療法が広まりをみせていますが、東京都作業療法学会においては今回がオープン・ダイアログ初上陸となります。

今回のワークショップでは、オープン・ダイアログの原則を含む概要や日本での実践例などの講義形式と、実際に参加者がその手法を体験する実践形式等を予定しております。作業療法の実践においても対話は重要な介入手段であるため、参加者の皆さんが臨床にオープン・ダイアログのエッセンスを持ち帰れるよう企画していますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

講師略歴

精神科医・鍼灸師。独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センターに勤務し、依存症患者などと向き合いつつ、埼玉の病院でも緩和医療を实践。

2003年にホームレスを支援するNGO「TENOHASI」を立ち上げ、2008年にNPO法人化し、代表として東京の池袋で炊き出しや医療相談などを行う。

2009年世界の医療団東京プロジェクト代表に就任。その後、現職であるみどりの杜クリニック院長へも就任し、2016年には池袋にゆうりんクリニックを立ちあげる。その他、アジアやアフリカを中心に40ヶ国をバックパッカーとして歩んだ経験を持つ。

ワークショップ4 子ども委員会

第13回東京都作業療法学会 子ども委員会ワークショップ “子ども委員会カフェ ～特別支援について語ろう～”

首都大学東京健康福祉学部作業療法学科准教授 伊藤 祐子

みなさまこんにちは。今回の学会では、“カフェ”を企画しました。テーマは、“特別支援について語ろう”です。特別な支援の必要な子どもたちは、年々増えているといわれていて、発達領域の作業療法のクライアントとしても増加の一途をたどっています。それに伴い、特別支援教育の現場はもとより、幼稚園、保育園、地域における家庭での子育て支援、就労支援など、保険診療以外の現場での、発達障害や、発達障害の特性を持つ児童・青年、社会にうまく参加できない児童・青年等への支援活動の機会が増えていくと考えられます。これまでの研修会では、多くの参加者から“座談会的にメンバー同士、日々の臨床や支援の現場での経験、思い、課題だと感じることなどを共有する場が欲しい”という意見が上がりました。また、一方で、“特別支援に興味はあるけれど、実際どのようなことをするのかかわからないので、実践者の話を聞いてみたい”という意見も挙がっています。ぜひ今回のワークショップをそのような場として活用してください。また、語ることを通して見出されたテーマは、今後私たち作業療法士が、特別支援の現場で信頼を得、継続的に必要不可欠な職種として発展していくための大切な課題に結びつくものと考えます。現在発達領域や特別支援に関わられていなくても、特別支援に興味をお持ちのかたはどなたでもご参加ください。

講師略歴

作業療法士。専門は発達障害領域の作業療法。日本作業療法士協会会員（認定作業療法士）、東京都作業療法士会子ども委員会委員長、日本発達系作業療法学会理事、日本感覚統合学会インストラクター など。

1988 都立医療技術短期大学作業療法学科卒業

1988 昭和大学藤が丘病院

1989 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院小児訓練室

1995 首都大学東京（都立医療技術短期大学、都立保健科学大学）助手・助教

1996 放送大学教養学部発達と教育専攻卒業

1998 日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻修了 修士（工学）

2006 芝浦工業大学大学院工学研究科機能制御システム専攻博士後期課程満期退学

2007 芝浦工業大学大学院工学研究科 博士（学術）

2008～首都大学東京健康福祉学部作業療法学科准教授

シンポジウム

「変流は始まっている、いざ地域へ」

座長

第13回東京都作業療法学会 学会長

渡辺 浩之

シンポジスト

学校法人彰栄学園 彰栄リハビリテーション専門学校 専任講師

越智 哲夫

都筑区地域活動支援センター 地域作業所ネットワークつなぎつづき 会長

野々垣 睦美

合同会社 Steady&Link グループホームリックス 代表

石黒 武

今回のシンポジウムでは、地域で活躍されている先生、地域での豊富な活動経験を有する先生をシンポジストにお招きし、地域での作業療法の歴史、その実際を生の声で語ってもらい、今、作業療法士は地域で何を為し得ているのか、何が課題となっているのかを熱く語ってもらい、会場との活発な討論、意見交換を通して、現状を考察し、そこから見えてくるものは何か？今後どうあるべきか？を明らかにし、作業療法の進むべき道を、その方向とあり方を大胆に提示していきたい。

越智 哲夫

野々垣 睦美

石黒 武



1985年 社会医学技術学院 卒業
 1985年 財団法人 井之頭病院 入職
 1991年 財団法人 全国精神障害者家族会連合会 精神障害者通所授産施設ZiP 作業療法士 所長、精神障害者小規模作業所 かれん 指導員 所長、地域事業部 部長
 2000年 社会医学技術学院 作業療法学科 専任教員
 2009年 医療法人社団 英世会 介護老人保険施設 サルビア リハビリテーション科
 2011年 医療法人社団 青木末次郎記念会 相州病院 リハビリテーション科 精神科作業療法部門
 2014年 彰栄リハビリテーション専門学校 作業療法学科 専任講師

1996年 国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院 卒業
 1996年 神奈川県総合リハビリテーションセンター 入職
 2004年 神奈川県総合リハビリテーションセンター 退職
 2004年 クラブハウスすてっぷなな 開設 (現:特定非営利活動法人脳外傷友の会ナナクラブハウスすてっぷなな)
 2007年 一般社団法人 神奈川県作業療法士会 理事
 2008年 都筑区地域活動支援センター・地域作業所ネットワークつなぎつづき 会長
 2011年 一般社団法人 日本作業療法士協会 制度対策部 障害保健福祉対策委員会 委員

2006年 社会医学技術学院卒業
 2006年 東京海道病院 作業療法科
 2013年 一般社団法人メンタルさぼーと協会 プライマリー訪問看護ステーション
 2015年 リカバリーカレッジたちかわ運営委員
 2016年 合同会社 Steady&Link グループホームリックス開設